



大阪中之島美術館 「没後50年 高島野十郎展」

2026年1月14日（水）より前売券販売開始

大阪会場限定 《蝋燭》ガラスカップ付きチケットも

会期 | 2026年3月25日（水） - 6月21日（日）

大阪中之島美術館（所在地：大阪市北区）は、「没後50年 高島野十郎展」を2026年3月25日（水） - 6月21日（日）の期間、開催いたします。

高島野十郎（1890 - 1975）は、「蝋燭（ろうそく）」や「月」などを独特の写実的筆致で描いた福岡県久留米市出身の洋画家です。没後50年の節目に開催する本展は、代表作はもちろんのこと、初公開も含めた160点超を展示する過去最大規模の回顧展で、大阪では初めて開催されます。「孤高の画家」と呼ばれてきた野十郎の芸術が形成されたルーツを遡り、青年期や滞欧期の作品など、従来の展覧会ではそれほど大きく取り上げられることがなかった部分にも焦点を当て、その芸術の真髄に迫ります。

つきましては、1月14日（水）10時より前売券の販売を開始いたしますので、お知らせいたします。注目は大阪会場限定となる、グッズ付きチケットです。



ポスター・デザイン

大阪会場限定 グッズ付きチケット

《蝋燭》ガラスカップ付きチケット 3,000円（税込）一般のみ・数量限定

代表作である《蝋燭》をプリントした大阪会場限定のガラスカップです。

蝋燭の炎と展覧会ロゴの部分は半透明になっていて、注いだ飲みものに合わせて色が変わります。

サイズ：最大口径約8cm×高さ約10cm 参考容量：約300cc

※耐熱ガラスではありません。使用の際はご注意ください。



《蝋燭》ガラスカップ

※画像はイメージです

【販売期間】2026年1月14日（水）10:00 - 3月24日（火）23:59

【販売場所】展覧会公式オンラインチケット(etix)、ローソンチケット (Lコード：53689)

※グッズは本展会期中・開館日・開場時間に本展会場内特設ショップレジカウンターでお引き換えください。

※限定数に達しない場合のみ、グッズは会場内特設ショップで販売予定です。（会場販売価格：税込1,650円）



本展のみどころ

- 写実の極致を求めた画家の全貌に迫る回顧展、大阪初にして160点超が集結
- 目を凝らすほどに浮かび上がる謎、作品の深遠な魅力にふれる
- 東大首席卒業から独学の画家へ、信念の人物像に迫る

この写実には何かある—目を凝らすほどに浮かび上がる謎



妖艶な美しさ

野十郎の主要なテーマのひとつである静物画。なかでもカラスウリは何度か用いたモチーフで、代表作のひとつに数えられます。カラスウリの朱い実はまるで浮かんでいるような軽やかさがある一方、なまめかしくも美しい、独特の雰囲気を醸し出しています。

高島野十郎《カラスウリ》

昭和10（1935）年 福岡県立美術館



闇を描くために月を描く

光と闇は野十郎が追求し続けたテーマで、多くの連作が生まれました。写実によって闇を描くという一見すると不可能にみえる行為は、仏教的な関心とも繋がっていると考えられています。月をテーマにした作品は徐々に周囲の風景が捨象され、ただ暗闇に輝く満月だけを描くという、極めてストイックな画面へと変化していきます。

高島野十郎《満月》

昭和38（1963）年頃

東京大学医学研究所



たまたま？わざと？

粉々に割れた赤絵の皿。たまたま割れてしまったのか？わざと割ったものなのか？なぜこの皿を描いたのか？次々と謎が生まれます。このように、野十郎には、なんらかの意図があるように見えながらもその真意がわからない、まるで禅問答のような作品がいくつもあります。

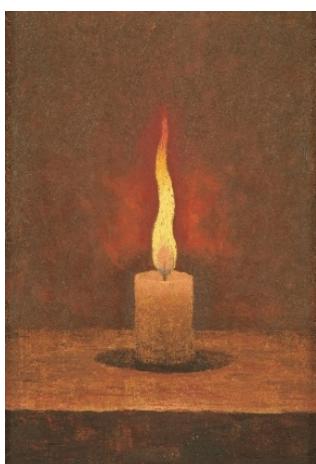
高島野十郎《割れた皿》

昭和23（1948）年以降 福岡県立美術館



高島野十郎《菜の花》

昭和40（1965）年 ブルーミング中西株式会社



野十郎藝術の真骨頂にして最大の謎

野十郎は生涯にわたり、飽きることなく蠟燭を描き続けました。しかし、これらの作品は個展で発表されることもなく、親しい友人やお世話になった人に感謝の気持ちとともに贈られました。決して消えることのない永遠の炎を描きたかったのか、あるいは炎が消える最後の瞬間を描いたのか、想像は尽きません。

高島野十郎《蠟燭》

大正時代（1912-26） 福岡県立美術館

見つめられる私たち

野十郎の風景画は現実の風景に取材しながら非現実の雰囲気をただよわせます。風にそよぐことなくまっすぐとこちらを見る菜の花は、ありふれた春の光景でありながらも日常を超えた何かを感じさせます。花のそばで舞い飛ぶ白い蝶もまた意味ありげに見えます。



高島野十郎とは？

高島野十郎（たかしま・やじゅうろう／1890（明治23）年 – 1975（昭和50）年



福岡県御井郡合川村（現・久留米市）の裕福な酒造家であった高島家の五男に生まれる。本名は彌壽。福岡県立中学明善校（現・明善高等学校）に学んだ頃から絵に目覚め、旧制第八高等学校（現・名古屋大学）を経て東京帝国大学農学部水産学科を首席で卒業するものの、画家の道を選んだ。以後も独学で絵を学び、美術団体にも属すことはなかった。生涯自身で都内の渋谷や青山で多くを過ごすも、70歳を過ぎて千葉県柏市の田園のなかに水道も電気もない小さなアトリエを建て生活を始め、以降亡くなるまで描き続けた。享年85歳。

高島野十郎《格子をかける自画像》
大正9（1920）年 福岡県立美術館

関連イベント

講演会①「高島野十郎とは誰か—没後50年展がひらく新たな全貌」

日 時：2026年3月25日（水）14:00 - 15:30（開場13:30）

登壇者：高山百合（福岡県立美術館 学芸員）

講演会②「高島野十郎と夜景表現の系譜」

日 時：2026年4月29日（水・祝）14:00 - 15:30（開場13:30）

登壇者：宮下規久朗（神戸大学 教授）

講演会③「高島野十郎、その魂の旅」

日 時：2026年5月30日（土）14:00 - 15:30（開場13:30）

登壇者：西本匡伸（福岡県立美術館 特任学芸員）

①～③いずれも、下記にて実施します。

会 場：大阪中之島美術館 1階ホール

定 員：150名（先着順、事前申込不要）

参加費：無料 ※ただし本展観覧券（利用後の半券可）が必要

学芸員によるギャラリートーク

日 時：2026年4月15日（水）、5月26日（火）いずれも11:00 - 11:45

定 員：25名

参加費：無料 ※当日、本展の展示室にご入場いただくための観覧券が必要

申 込：大阪中之島美術館公式サイトよりお申ください。 2026年3月16日（月）10:00より受付開始



開催概要

展覧会名	没後50年 高島野十郎展
会期	2026年3月25日（水）～6月21日（日）
休館日	月曜日 ※4月27日（月）、5月4日（月・祝）は開館
開場時間	10:00～17:00（入場は16:30まで）
会場	大阪中之島美術館 4階展示室
主催	大阪中之島美術館、毎日新聞社
協賛	大和ハウス工業
協力	ブルーミング中西
観覧料	一般：1,800円（1,600円） 高大生：1,200円（1,000円） ※（ ）内は前売・団体料金 ※税込価格 ※中学生以下無料 ※団体料金は20名以上。

団体鑑賞をご希望になる場合は事前に大阪中之島美術館公式サイトからお申込みください。

※学校団体の場合はご来場の4週間前までに大阪中之島美術館公式サイト学校団体見学のご案内からお申込みください。

※障がい者手帳（身体障がい者手帳、療育手帳、精神障がい者保健福祉手帳）をお持ちの方（介護者1名を含む）は当日料金の半額（要証明）。

ご来館当日、2階のチケットカウンターでお買い求めください。（事前予約不要）

※本展は、大阪市内在住の65歳以上の方も一般料金が必要です。

※日時指定制ではありません。展示室内が混雑した場合は、入場を規制する場合があります。

※災害などにより臨時休館する場合があります。

【前売券販売期間】

2026年1月14日（水）10:00～3月24日（火）23:59

【主なチケット販売場所】

大阪中之島美術館チケットサイト、オンラインチケット（etix）、ローソンチケット（Lコード:53689）

展覧会公式サイト <https://takashimayajuro50.jp>

美術館公式ホームページ <https://nakka-art.jp/exhibition-post/yajuro50/>

お問い合わせ 06-4301-7285 大阪市総合コールセンター（なにわコール）※受付時間8:00～21:00（年中無休）

報道関係者

お問い合わせ先

「没後50年 高島野十郎展」広報事務局（株式会社TMオフィス内）

担当：馬場、永井、西坂 TEL：090-6065-0063（馬場） 090-5667-3041（永井）

テレフォンセンター：050-1807-2919 FAX：06-6231-4440 E-MAIL：takashimayajuro50@tm-office.co.jp



[広報用画像一覧] 没後50年 高島野十郎展

本展の展示物等の画像を、広報素材としてご提供いたします。下記申し込みフォームよりお申し込みください。

[広報用画像申込フォーム]

<https://forms.gle/LNjGHSvJPPGZ6tu49>

*難しい場合は申込書に必要事項をご記入のうえ、広報事務局までご送付ください。

■ 広報画像をご使用の際は、別紙に記載の「画像使用全般に関する注意」を必ずご確認ください。

(1) 	(2) 	(3)
(4) 	(5) 	(6)
(7) 	(8) 	(9)
(10) 	(11) 	(12)
(13) 	(14) 	(15)
(16) 	(17) 	



[広報用画像クレジット一覧] 没後50年 高島野十郎展

No.	クレジット一覧
1	ポスター・デザイン
2	《蝋燭》ガラスカップ イメージ
3	高島野十郎《からすうり》 昭和10（1935）年 福岡県立美術館
4	高島野十郎《満月》 昭和38（1963）年頃 東京大学医科学研究所
5	高島野十郎《割れた皿》 昭和23（1948）年以降 福岡県立美術館
6	高島野十郎《蝋燭》 大正時代（1912-26） 福岡県立美術館
7	高島野十郎《菜の花》 昭和40（1965）年 ブルーミング中西株式会社
8	高島野十郎《絡子をかけたる自画像》 大正9（1920）年 福岡県立美術館
9	岸田劉生《静物（湯呑と茶碗と林檎三つ）》 大正6（1917）年 大阪中之島美術館
10	高島野十郎《田園太陽》 昭和31（1956）年 個人蔵
11	高島野十郎《岸上鎌吉先生像》大正10年代（1921-26）頃 東京大学大学院農学生命科学研究科水圈生物科学専攻
12	高島野十郎《筑後川遠望》 昭和24（1949）年頃 福岡県立美術館
13	高島野十郎《イタリヤの海 キオッジア漁村》 昭和5-8（1930-33）年 個人蔵
14	高島野十郎《れんげ草》 昭和32（1957）年 個人蔵
15	高島野十郎《法隆寺塔》 昭和33（1958）年 個人蔵
16	高島野十郎《さくらんぼ》 昭和31（1956）年頃 福岡県立美術館
17	高島野十郎《睡蓮》 昭和50（1975）年 福岡県立美術館



[広報用画像申込書] 没後50年 高島野十郎展

[画像使用全般に関しての注意]

- ・本展広報用画像の使用は、展覧会の紹介を目的とした報道に限らせて頂きます。ご使用可能期間は本展会期終了までです。
- ・ご使用の際は、展覧会名、会期、会場名、所定の作品データ、所定のクレジットを必ずご掲載ください。
- ・画像はすべて全図で使用してください。トリミング、文字や他のイメージを重ねることはできません。
- ・本展終了後の掲載、画像の二次使用はできません。本展会期中であっても再放送や転載をされる場合は広報事務局にご連絡ください。
- ・展覧会基本情報と広報画像の確認のため、校正を本展広報事務局にお送りくださるようお願いいたします。
- ・インターネットでご紹介いただく場合はコピーガードをかけてご使用のうえ掲載URLをお知らせください。
- ・掲載誌・紙（ご紹介号）、同録DVDほかを下記広報事務局まで1部お送りください。

[広報用画像申込フォーム]

<https://forms.gle/LNjGHSvJPPGZ6tu49>

*難しい場合は申込書に必要事項をご記入のうえ、広報事務局までご送付ください。

ご希望画像／1 · 2 · 3 · 4 · 5 · 6 · 7 · 8 · 9 · 10 · 11 · 12 · 13 · 14 · 15 · 16 · 17																		
貴社名／																		
お名前／																		
部署／								ご所属／										
貴媒体名／										媒体種／								
サイトURL／																		
掲載号・露出予定日／				月号 (月		日号) ／		月			日発売予定				<input type="checkbox"/> WEBへの転載あり
TEL／								FAX／										
E-MAIL／																		
<input type="checkbox"/> チケットプレゼントを希望する（最大2組4名様） *招待券のご提供は、広報用画像1点以上を掲載の上、本展をご紹介いただける場合に限らせていただきます。																		
送付先／ 〒 -																		
備考／																		